

平成 22 年 1 月 13 日
〈学校段階間の連携・接続に関する作業部会発表資料〉
滋賀県立守山中学校・高等学校
校長 川那邊 章

滋賀県立守山中学校・高等学校での中高一貫教育の取り組みについて

1. 学校の概要

本校は滋賀県南部地域の守山市に昭和 38 年 4 月に滋賀県立守山高等学校として開校され、平成 15 年 4 月に併設型の中高一貫教育校として滋賀県立守山中学校が併設された。現在の定員は中学校が各学年 80 名の計 240 名、高等学校が全日制普通科各学年 6 学級 240 名（内部進学 2 学級を含む）の計 720 名、中高あわせて 960 名である。

本校の校訓は

「協和」 互いの人格を尊重し、協力する心を大切にする人間を育てる。

「進取」 積極的に物事に取り組み、主体的に行動できる人間を育てる。

「叡智」 一人ひとりの個性を生かし、高い知性を持つ人間を育てる。

本校の生徒像 学習、自主活動、部活動すべてに積極的に取り組む。

2. 本校の目指す中高一貫教育

・特色ある教科の設置

中学校では（ディベート、サイエンス、ソーシャルスタディ）の 3 つの特色ある教科の学習を通じて、言語力、科学的なものの見方や思考力、社会認識の基礎を培う力を育成している。

・「人間探求学」を通じての学び

6 年間の総合的な学習の時間を「人間探求学」として位置づけ、自ら課題を設定し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけ、人間の在り方・生き方について考え、自己の進路決定について考えさせている。

・「言語活動」を豊かにするための取り組み

国語通信「かつほ」の発行、行事实施後の感想文の提出、国語の授業での 150 字作文指導、中学 7 限目を読書の時間として活用、人間探求学では発表を取り入れる。

3. 中高の接続について

・高校教員による中学授業の担当

学習面では高校授業の先取りはほとんど実施していないが、中学の授業への高校教員の配置を行うことにより、教える側における中高の接続が十分に行われている。

・部活動への参加

中学 3 年の夏休み以降は、高校の部活動への入部を認め活動を行っている。

・「人間探求学」での学び

6 年間を通じて課題学習を行うことにより、自分の将来を継続して考えることができるとともに、上級生のレポートや発表を聞くことにより、高校生を身近な目標として捉え、学びの意欲につながっている。

4. 安心して学べる学校づくり

生徒が意欲的に学び、活動し、成長するためには、安心して学べることが大切である。

・「高校入試」がないことの安心

中学生にとって高校入試がないことにより、安心してさまざまな学び、活動に組みながら中学時代を過ごすことができる。そのため、各種検定や海外研修など中学 3 年次での積極的な学びにつながっている。

・生徒間での中高の交流による安心

中学生への「絆プロジェクト」への参加や部活動での先輩との交流、学園祭での高校生の取り組みの意欲やリーダーシップ等を感じるにより、安心して高校生活を迎えることができる。

・教員との安心

内進生徒にとっては高校で授業担当する教員の多くをすでに中学時代に知っているという安心感がある。また、高校入学後も自分の悩みを聞いてくれる中学教員がいて、いつでも相談できるという安心感がある（保護者にとっても）。

1. デベートはこんな授業です。

国語デベート

・中学校 1年・2年に年間17時間、3年に18時間を配当して実施している。
1年次、2年次でデベートの進め方を学習し、1チーム4名のミニデベートを体験させる。
3年生、実際に論題を選びデベートを実施する。1チーム8名でクラス内でのリーグ戦。
準備期間は2週間で、論題は代表者による抽選で決定する。生徒は楽しく参加し、相手チームに勝つためにいろいろと作戦を考え、しっかりした資料を作る。

成果 国語力(表現力や聞く力など活用力が向上)特に論理を組み立てる力を伸ばすことができたと考えている。また、生徒に興味を持てるように教材研を行う結果として、教師の授業力向上につながっている。

英語デベート

・中学校 1年・2年に35時間、3年に87時間を配当して実施している。
1年次、2年次はデベートに向けたトレーニング。テーマに沿った発表原稿を書けるようにする。スピーチを聞いて概要を理解できるようにする。
3年生・・「紙上デベート」を目標にし、ライティングの指導を行うとともに、実際に論題を与えてデベートを実施する。1チーム4名で対戦させる。

成果 英語力(表現力や聞く力など活用力が向上)リスニングやリーディングなどのインプットする力を向上させることは重要であるが、デベートの指導を通じてアウトプットする力を付けることができたと感じられる。

2. サイエンスはこんな授業です。

数学サイエンス

・中学校 1年～3年に年間35時間を配当して実施している。
知識や解法よりも原理や考え方の重点を置いて、一つの課題に対して複数の考え方や数学的に表現・処理する力を身につける。

理科サイエンス

・中学校 3年に35時間を配当して実施している。
理科学習の基本である観察、実験の活動を取り入れ、科学的な思考力を身につける。

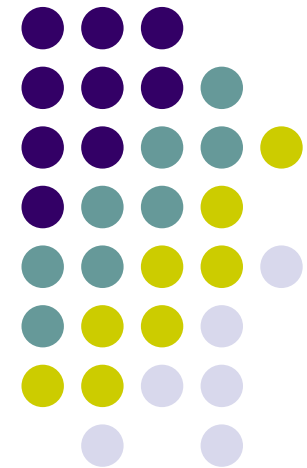
3. ソーシャルスタディはこんな授業です。

ソーシャルスタディ

・中学校 3年に35時間を配当して実施している。
広い視野にたって、社会と人間についての諸課題を多面的・多角的に考察し、現代社会に対する理解を深め、国際的な視野を養います。新聞記事やニュースを教材として扱うことを大切にしています。

平成22年12月13日

滋賀県立守山中学・高等学校での中高一貫教育の取り組みについて
学校段階間の連携・接続等に関する作業部会での発表



滋賀県立守山中学校・高等学校 校長 川那邊 章



滋賀県立守山高等学校・昭和38年に開校(全日制普通科)
湖南地域での中堅進学校・文武両道の校風

滋賀県立守山中学校・・・平成15年に中高一貫教育校として編成

併設型中学校が開校・学年2クラス80名

現在の学校規模は

高等学校 学年6クラス(内2クラスは内進)

全校18クラス 720名

中学校 学年2クラス

全校6クラス 240名

学校全体では 960名(24クラス)

校訓・・・【協和】 【進取】 【叡智】





特色ある教科の設置

ディベートはこんな授業です。

国語ディベート

1チーム8名構成で、賛成・反対のそれぞれの立場から、意見を戦わせる。

ねらい・表現力や聞く力など言語の活用力を向上させる
論理を組み立てる力を伸ばす





英語ディベート

1チーム4名構成で役割を分担する。
役割に従い80字程度で英文を完成。
賛成・反対の立場を明確にして、英語で自分の意見を発表する。

ねらい・・・リスニングやリーディングのインプットする力を向上させる。
英語を用いてのアウトプットする力、表現力を向上させる。





中高の接続について

高校教員による中学校授業の担当
教える側での中高の接続ができる。
中学校教員が高校1年の授業を担当

部活動での接続・・・中学3年夏休み以降での高校部活動への参加

「人間探求学」での学び

6年間を通じて自分の将来を考えさせる

上級生や高校生の発表を学び、学習意欲につながる

中学2年生での「チャレンジウイーク」
高校2年生での「フィルドワーク」

プロジェクトアドベンチャー



チャレンジウィーク

「地域と私」屋台形式発表会



中高一貫教育の制度を活用した「安心して学べる学校づくり」



「高校入試」がないことの安心

- ・各種検定への挑戦。・英検2級の合格
- ・読書活動・県内で最も本を読む中学生
- ・海外研修などへの参加希望

生徒間での中高の交流による安心

- ・「絆プロジェクト」への参加
- ・部活動や学園祭を通じた交流
- ・高校生をよい手本とし、さまざまな活動へ意欲的に取り組む

教員との安心

- ・高校入学後も安心して相談できる中学教員がそばにいることの安心。
- ・多くの教員を知っているという安心